

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

| 大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ） | | |
|----------------------|-------------|----------------|
| フリガナ）ニホンダイガク | フリガナ）ショウガクブ | フリガナ）ヤマモトゼミナール |
| 日本大学 | 商学部 | 山本ゼミナール |

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

| チーム名（フリガナ） | 代表者名（フリガナ） | チーム人数 （代表者含む） | PPT 動画 （有・無） |
|---------------------|-------------|------------------|-----------------|
| フリガナ）ヤマモトゼミナールピーチーム | フリガナ）コミネタカヤ | 4 | 無 |
| 山本ゼミナール B チーム | 小峰拓也 | | |

| 研究テーマ（発表タイトル） |
|-------------------|
| 出版業界の返品率削減へのアプローチ |

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

返品率約 40%にのぼる出版業界の現状を明らかにしつつ、先行研究と訪問調査などを通して、返品率削減の新しい方法について考える。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

出版業界特有の制度である、再販制と委託制が大きく関係しており制度が出来た時と取り巻く環境が異なってきたため、1990 代は出せば売れるような時代だったが全体の市場が狭まりそれに伴い返品率も上がり始めた。また返品率が上昇してきたころを境に出版社と書店の数が減少してきた。

3. 研究テーマの課題

出版業界のSCMの課題を抽出し新しい解決方法の提案をする。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

2000年代半ばから返品率を下げるために取次の主導でSCMを行ってきたが成功はしていない。その原因が本の特性上応答性重視のSCMを行えていないことにある。つまりSCMで返品率を減少させることは難しいと考えられる。

「需要予測の精度向上と新たな配送ルート」

返品率が40%になるのは過剰な生産が原因とされており、生産部数を減らせば返品率も必然と下がると考えられる。過剰生産を避けるためには正確な需要予測が必要とされるがその需要予測の基となるPOSシステムの導入率は現在40%以下となっている。そのため過剰生産が生まれ同時に返品率が高くなる。そこで提案する「需要予測の精度向上と新たな配送ルート」はまず初めにPOSを導入している書店からの正確な情報のみで初版を行

う。刷った本をまず POS の情報を提供してくれた書店に優先的に配送し、その優先的に配送した書店から返品された本を POS 未導入店に配送するというものです。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

書店・組合等に調査を行い「大規模な買切制」の実現可能性の有無を調査し、リスクが高いために導入の可能性は低いということが明らかになった。

6. 結果や今後の取り組み

検証の結果提案の配送ルートの実現は困難であるということが分かった。三者に意識を共有させ、特に返品率を減少させるには書店側の委託制度に依存せず自店の顧客をより理解してそれに基づいた発注をかけそれを確実に売るといった浸透が必要。そういった取り組みを行うことによって生産量と返品率の抑制につながる。

7. 参考文献

「GLOBIS MANAGEMENTO SCHOOL」

gms.globis.co.jp/dic/01049.php

「全国小売書店経営実態調査」

http://repo.lib.hosei.ac.jp/bitstream/10114/6476/1/cd05_togawa.pdf

「日経ビジネスオンライン」<http://business.nikkeibp.co.jp/article/tech/20060724/106731/?rt=nocnt>

「流通段階間における協調的な在庫管理による返品削減」秋川卓也

「サプライチェーンマネジメント論」中野幹久

「全国小売書店経営実態調査報告書」2016

「出版りバイバルプラン～出版流通の効率化」日本大学法学部白井ゼミナール

「出版流通に見るサプライチェーン全体最適化への示唆」日野典明

<http://www.nri.com/jp/opinion/chitekishisan/2007/pdf/cs20070603.pdf>

出版月報「販売指標 2016」

「出版・書籍業界における SCM(サプライチェーンマネジメント)」入江純一

<http://www6.airnet.ne.jp/scmbm/200102/scm0102-syuppan.PDF>

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。